

# 炸裂… 人は街は

## ヒロシマの記録 原爆被災写真 1945-2003年

広島市に史上初めて一九四五年八月六日に落とされた一発の原子爆弾で、人間は、街はどうなったのか。核兵器は二十一世紀の今も存在し、世界を脅かしている。

原爆は、三方を山で囲まれたデルタのほぼ中央、上空六百メートルで炸裂した。火球温度は百万度を超え、数十万気圧の圧力が衝撃波として広がり、ガンマ線など大量の放射線が飛び散った。約三十分後からは「死の灰」を含んだ黒い雨が北西部にかけ広島市に降り注いだ。原爆の威力と悲惨さは、想像を絶している。

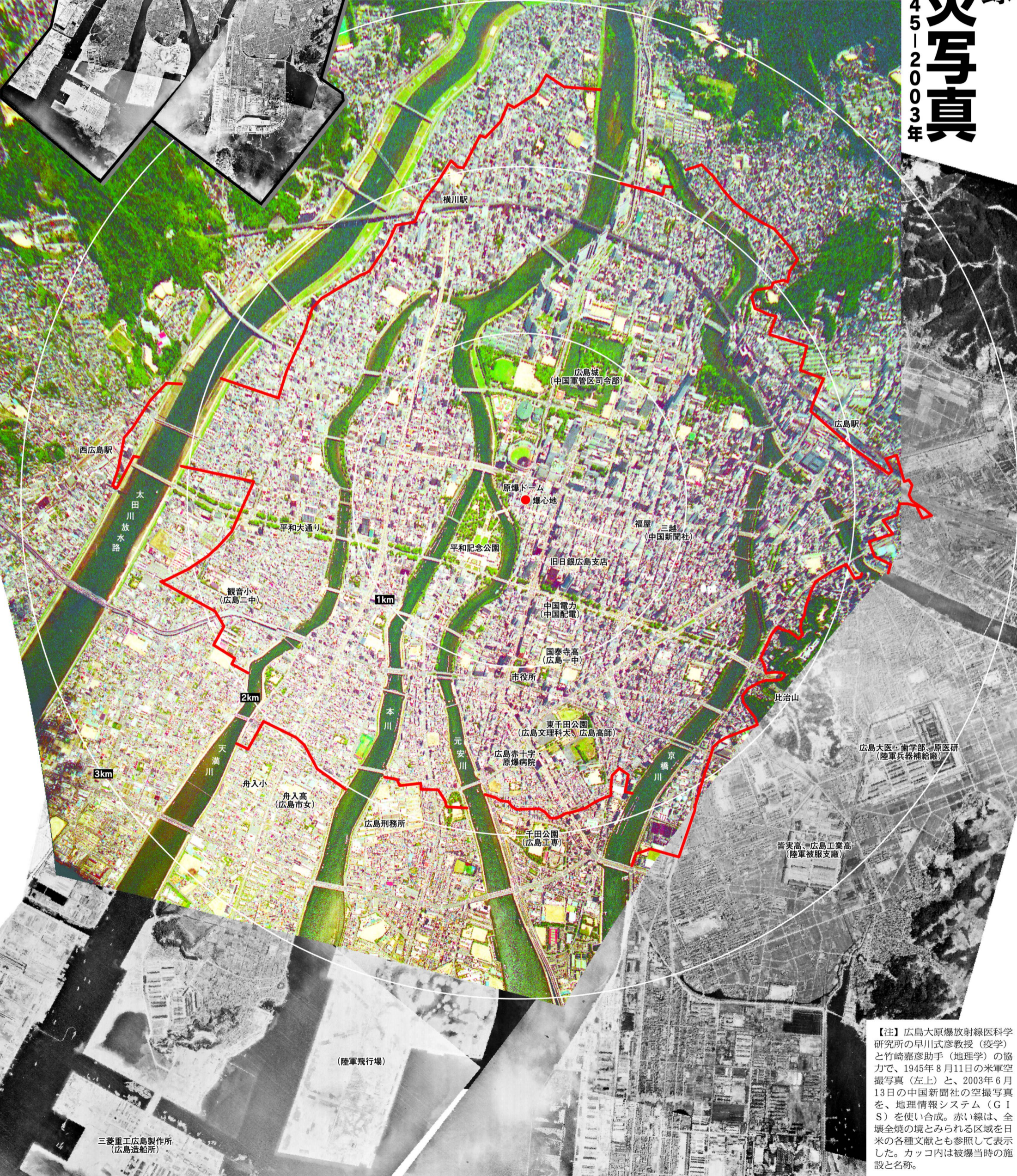
一体どれだけの人間が亡くなったのか。国が、全体像の究明を怠ってきたこともあり、明らかではない。市は、被爆の翌年から積み上げた調査などを基に七六年国連に提出した推計値で、四五年末までの死没者を二十四万一千一人としていた。

この被災合成写真は、広島大原爆放射線医学研究所の協力で最新のデジタル技術を用い、被爆五日後の空撮と現在を重ね合わせ、被爆の実態の一端を表した。

全壊全焼の地域の境界線は、爆心地から半径一キロ前後に及んだ。一キロ以内で熱線にさらされた人間は約90%が、二キロ以内は逃げ場がない場合で約80%が死亡した。また、放射線の影響がとりわけ強かったこの地域には、親きょうだいを喪って無数の人間が入った。

一九四五―二〇〇三年を刻む原爆被災写真は、ヒロシマから世界への警告の記録でもある。広島原爆の威力をしるべく核兵器は、三万発を超えている。

(編集委員・西本雅美)



【注】広島大原爆放射線医学研究所の早川式彦教授(疫学)と竹崎嘉彦助手(地理学)の協力で、1945年8月11日の米軍空撮写真(左上)と、2003年6月13日の中国新聞社の空撮写真を、地理情報システム(GIS)を使い合成。赤い線は、全壊全焼の境とみられる区域を日本の各種文献とも参照して表示した。カッコ内は被爆当時の施設と名称。

三菱重工広島製作所(広島造船所)

(陸軍飛行場)

広島大医・歯学部、原医研(陸軍兵器補給廠)

皆実高、広島工業高(陸軍被服支廠)

千田公園(広島工専)

広島赤十字原爆病院

東千田公園(広島文理科大、広島高師)

市役所

国泰寺高(広島一中)

中国電力(中国配電)

旧日銀広島支店

福屋 三越(中国新聞社)

原爆ドーム

広島城(中国軍管区司令部)

横川駅

広島駅

西広島駅

太田川放水路

平和大通り

観音小(広島二中)

舟入小

舟入高(広島市女)

広島刑務所

元安川

京橋川

比治山

1km

2km

3km

天満川

本川